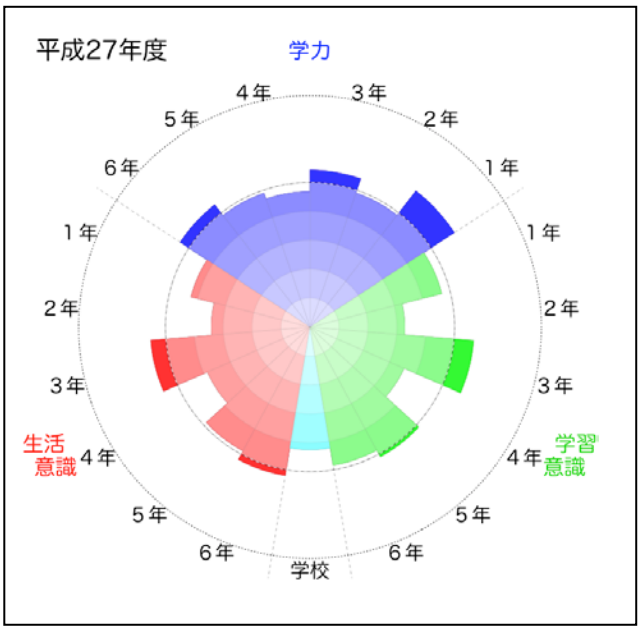
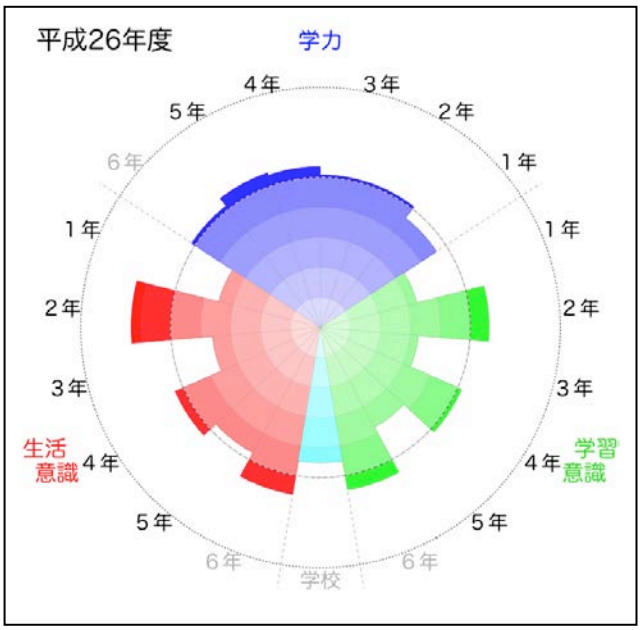
横浜市立鳥が丘小学校
平成２８年度　学力向上アクションプラン

１　横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握

（１）分析チャートから





①学力の傾向

教科の学力は、平成２６年度の集団がそのままスライドし市の平均とほぼ同じか、少し上回っている。

②学校質問紙から

全教員が自校の「学力向上アクションプラン」を理解し、授業研究を中心とした研究・研修は定着してきている。また、家庭学習の課題の出し方についての教員間の共通認識が持てている。しかし日常の学習指導においては、コンピューターを活用した授業や基礎的な指導技術（本時目標の提示・児童の発言や活動の時間の確保・学習規律の維持等）を一層身につける必要がある。

③児童質問紙から

生活意識「学校生活」では、各項目の凸凹は小さくなっているが、全体としては市の平均をわずかに下回っている。中でも勉強は「好き」あるいは「どちらかと言えば好き」と答えた児童は７１％いるのに対して、「授業がよく分かりやすい」と答えた児童は３５％であった。また、「学習意識」の特徴として「自分の考えを発表する」という項目では、約半数の児童が「どちらかと言えばできていない」と答えている。

（２）教科学力及

国語科

〈言語事項〉　配当漢字を文の中で正しく書いたり読んだりする力は、市の平均を上回っている。

〈書くこと〉　自分の意見を明確に伝えるために、結論や理由を端的に書くことについては課題が残るが自分の考えを支えるための根拠や事例となる材料を集めて書く力はついている。

〈読むこと〉　目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて読むことができている。物語を把握して登場人物の行動や会話に着目して、相互関係を捉えることができている。

〈話す・聞く〉話の内容を正確に聞き取ることはできている。また、話し手の意図を捉えながら聞き

自分の考えをまとめることはほぼできているが、目的や意図に応じて話すことには課題が残る。

算数科

〈知識・理解〉数と計算については得点が高い。量と測定では、表を活用する能力や容積・体積の求積の方法を正しく理解している。

〈技能〉四則計算の技能は、学年差が多少見られるものの得点は高いといえる。高学年での割合や比例の内容に多少つまづきが見られた。

〈考え方〉低学年では図や式を用い、高学年では更に数直線を活用して課題を解決する力がついている。また、既習事項を利用して数量の関係を読み取り、その式を考えることができている。図形の学習では、得点のばらつきが課題として残る。

生活意識

〈学校生活〉授業中に自分の考えを発表することや外国人の先生が話していることを理解する・英語によるコミュニケーションを楽しいと感じる項目で消極的な回答が認められる。音楽・図工・生活科の勉強を好み、学校の決まりを守っていると感じている。

〈自己意識〉「あいさつを進んで行い、友だちや家族との約束を守っている」という項目でのポイントは高いが、日常生活では挨拶の指導が必要な実態がある。また、「自分には良いところがあると思う」という項目は、市の平均を下回っている。これは、ある程度自己を客観視でき他者との比較の中で、自分を評価する力があるとも言える。

生活実態調査

〈朝食の有無〉朝食を毎日食べる児童の割合は、９１％で市の平均をわずかに上回っている。

〈睡眠時間〉８時間以上の割合は５８％（市は６４％）・6時間以上８時間未満は３２％（市は２９％）・６時間未満は１０％（市は７％）である。市の平均と比較すると、睡眠時間は短い傾向にある。

〈テレビ視聴〉テレビゲームも含む調査では、1日に1時間未満は３７％（市は３５％）・1時間以上2時間未満は２８％（市は３３％）・2時間以上3時間未満１７％（市も１７％）3時間以上１９％（市は１４％）という結果から、テレビやテレビゲームの視聴時間が市の平均より少し長い傾向にある。

2　今後の方向

（１）最優先課題

ア　教員一人ひとりの授業力の向上

イ　特別な教育支援が必要な子どものいる学級に対するサポート

ウ　自尊感情を高め、誰もが安心して過ごせる学校生活

エ　保護者・地域の思いを受け止め共通理解をもった学校運営

（２）学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成２８年度～平成３０年度）

ア　基礎・基本をもとに自分の考えをもち表現する中で、協同的学びを重視した課題解決型学習の具現化を図ります。

イ　しっかり聞き（聴き）、自分なりの考えをもち、子どもどうしの学び合いによる、「できる」「かかわる」「分かる楽しさ」を実感し、自ら課題を見つけ主体的に学ぶ子の育成を目指します。

３　平成28年度　具体的方策

確かな指導技術に支えられた問題解決的な学習の充実（平成28年度目標）

（１）授業における取組

①基礎・基本の理解と定着：学習内容と目標を明確にし、主体的に学ぶことのできる授業構築
②学び合い：他の考えと比べる・自分の考えを深める・友達の考えの良さを認め合う時間や場の確保
：間違いを恐れずに表現でき、間違いを学習に生かせる学級集団づくり
③問題解決的学習：追及に耐える課題の提示・自分で調べ、自分で考え、自分でふりかえることのできる学習
④個に応じた指導：一般級や個別支援学級におけるユニバーサルデザイン化した環境づくり

国語科

○基礎基本の知識・技能の習得…教科書の文の音読・関連書籍の音読・主述の明確な短文づくり
○言葉の学習の日常化…漢字の書き取り・一言日記・記録の仕方の指導
○伝える相手を明確にした話し方の習得…伝えることの中心と聴く視点を明確にする指導
○掲示物の活用…学習のまとめなどを掲示し、互いの見方、考え方の確認や認め合い
○体験的活動の充実…目的に応じたインタビューや小グループでのテーマに沿った話し合い活動

算数科

○計算技能習得のための計画的な時間設定…少人数指導の充実、乗法九九の暗唱や四則計算などについて、フラッシュカードやワークシートなどを用いたスキルアップの工夫
○数量や図形の意味を実感をもってとらえるための算数的活動の充実…学年に応じて具体物や半具体物を用いた操作、実測などの算数的活動の単元計画への位置づけ
○説明する力を育成する指導の充実…自分が考えた問題解決の方法を具体物、言葉、数式、図、表、グラフなどを用いて友だちに分かるように説明する学習活動を取り入れた授業展開
○学習形態の工夫…ペアやグループなど小グループで話し合える時間や自分の考えと友達の考えを比べたり助言し合ったりして問題の解決に共同で取り組む時間の設定
○板書の工夫やノート指導の充実…問題解決のアイデアを言葉や図、式、表、グラフなどを用いて表現する活動の意図的な授業への位置づけ

（２）授業以外の取り組み

①全校体制による児童指導の充実

○教育相談の充実
・児童・保護者・職員に対して行われている学校カウンセラーの定期訪問による教育相談及び児童指導担当や特別支援教育コーディネーター、養護教諭等による教育相談を有効に活用し、全校体制による共通理解のもと児童指導を充実させる。
○コミュニケーション能力を育てるたてわり活動
・年間を通じて「たてわり」の学校行事や集会等を設定し、相手意識を育み、人への感謝や思いやりの気持ちをもったり協力して活動したりすることを大切にする。

②望ましい生活習慣の日常化

○早寝・早起き・朝ご飯の推進
・朝食の摂取率は高いが、子どもたちは睡眠不足の傾向がみられる。子どもの体力に応じた生活リズムの一定化を促したい。
○地域「学援隊」「わくわく農園」
・子どもたちの安全を見まもる地域の人や保護者に気持ちのよい挨拶ができるようあいさつ運動に重点的に取り組む。

③読書活動の充実

○読書時間の確保と本の読み聞かせ
・毎週水曜日の「朝読書」の時間を活用し読書活動の充実を図る。
・「お話のつばさ」（ボランティア）による読み聞かせ活動を推進する。